

不良債権処理の手順と貸倒引当金

A銀行のバランスシート

資産	負債／資本
貸出金 200	預金 150
	貸倒引当金 20
	資本金と剰余金 30

以前のB/S

預金150と資本金30をすべて
貸出金で運用した。

貸出金200に対して貸倒引当金20をあらかじめ計上。
(引当金を負債側の項目として表示)

自己資本比率は $30/200=15.0\%$

貸出金 200	預金 150
	貸倒引当金 (新たな回収不能見込み額10) 30
	資本金と剰余金 20

その後のB/S

貸出先企業が破綻する懸念が生じ、
貸出金のうち10があらたに回収不能と見込まれるので、
資本金を削り貸倒引当金を積み増して30にする。

これが間接償却
(貸出金200はそのまま残っている)

貸出金 190	預金 150
	貸倒引当金 (回収不能による損失額10) 20
	資本金と剰余金 20

今年度のB/S

貸出先が倒産して貸倒損失額が10になった。

* 貸倒損失額＝当該貸出金－担保売却額
担保売却額を新規の貸出にあてたとしても、
貸出金は損失額だけ減少し、引当金を同額とりくずす。
これが直接償却。

自己資本比率は低下 $20/190=10.5\%$

貸出金 200	預金 150
	貸倒引当金 20
	資本金と剰余金 30

自己資本比率を回復させるために1

増資して資本金を増やし、貸出額を復元する。

* 株式市場の低迷期には困難

または、公的資金の注入により増資する。公的管理に

* 信用収縮(下記)を避けるため

貸出金 135	預金 150
現金 55	貸倒引当金 20
	資本金と剰余金 20

自己資本比率を回復させるために2

破綻が懸念される別の貸出先企業から
貸出金の一部を回収して安全資産(現金)化する。
自己資本比率が回復 $20/135=14.8\%$

または、預金を増やして資産運用して、
剰余金と資本金を増強する。それまでは貸出を抑制。

* 自己資本比率が低い銀行では困難。

(貸しはがし、貸し渋り、信用収縮へ)

貸出金 135	預金 150
△貸倒引当金 -20	
現金 55	資本金と剰余金 20

今年度末に公表される貸借対照表

これ以上の回収不能見込み額が発生しなければ、
A銀行の今年度末のB/Sは左のように公表される。

BIS規制による自己資本比率＝(基本＋補完－控除項目)÷リスクアセット $\geq 8\%$

基本＝資本金。補完＝不動産の再評価差額金の45%など。リスクアセットのうち通常の貸出金は全額、現金や国債はゼロ。